

石神井教会創立67周年記念礼拝

二〇二五年二月十六日

【聖書朗読箇所】

イザヤ書 6章1〜12節

1 ウヰジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高き天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっばいに広がっていた。2 上の方にはセラフイムがいて、それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。3 彼らは互いに呼び交わり、唱えた。

「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。」

「主の栄光は、地をすべて覆う。」

4 この呼び交わす声によつて、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。5 わたしは言った。

「災いだ。わたしは滅ぼされる。」

わたしは汚れた唇の者。

汚れた唇の民の中に住む者。

しかも、わたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た。」

6 するとセラフイムのひとり、わたしのところへ飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。7 彼はわたしの口に火を触れさせて言った。

「見よ、これがあなたの唇に触れたので

あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」

8 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。誰が我々に代わつて行くだろうか。」

わたしは言った。

「わたしはここにおります。」

わたしを遣わしてください。」

9 主は言われた。

「行け、この民に言うがよい

よく聞け、しかし理解するな

よく見よ、しかし悟るな、と。」

10 この民の心をかたくなにし

耳を鈍く、目を暗くせよ。

目で見ることなく、耳で聞くことなく

その心で理解することなく

悔い改めていやされることのないために。」

11 わたしは言った。

「主よ、いつまででしょうか。」

主は答えられた。

「町々が崩れ去つて、住む者もなく

家々には人影もなく

大地が荒廃して崩れ去るときまで。」

12 主は人を遠くへ移される。

国の中央にすら見捨てられたところが多くなる。

説教「畏れから賛美に」

説教者 佐々木栄悦 師（東北教区・登米教会牧師）

一九六〇年、宮城県生まれ。

一九八三年十二月十八日、待降節第四主日
礼拝で受洗（石神井教会。授洗者Ⅱ阿佐ヶ
谷教会・大島力牧師）。

一九八六年、仙台東一番丁教会へ転出。

東北学院大学キリスト教学科卒業。

東京神学大学院修了。

一九九二年、牧師按手受領（関東教区）

遠州教会の伝道師の後に、東新潟教会、福
島教会を牧会。

福島の聖光学院高校宗教科主任を務め、定年
退職後は登米教会の牧師として現在にい
たる。

〔著書〕「神の恵みの水路」（新教出版）

〔メルマガ〕（無料版）「i-mode 聖書のメ

ッセージ」（発行所：まぐまぐ）

「石神井教会創立五十周年記念誌」より転載

石神井教会五十年略史（一九五七—二〇〇七年）

一九五七年（昭和三二年）

一九五八年（昭和三十三年）

一月二日（水）東京神学大学教授左近義慈氏宅で、教授御夫妻、阿佐ヶ谷教会大村勇牧師、石井忠善牧師らにより、伝道所開設について懇談し、そのために祈る。

二月二四日（日）阿佐ヶ谷教会臨時教会總會において石神井を中心に開拓伝道に着手し、すでに昭和二六年よりあつた佐々木忠一氏主管の石神井伝道所の名称を受けついで出発することが議せられ、満場一致折りのうちに決定された。

三月一〇日（日）三宅徳太郎、佳枝子御一家の御好意により、下石神井二ノ一二九〇の同氏宅で最初の聖日礼拝をもち、以後会堂建設まで毎日曜午後二時から礼拝を継続して守り、大村牧師、左近教授、石井牧師が交代で講壇を担当する。東京教区を通して会堂として米軍建物の私下げが抽選の結果確定する。

二月一五日（日）阿佐ヶ谷教会臨時教会總會において石神井伝道所会堂建築案を了承し、土地購入のため百万円を教団より借入れれることを決定した。

一月二日（火）建物を神奈川県日吉台より運搬する。

二月九日（日）阿佐ヶ谷教会の臨時教会總會において、石神井伝道所を分離独立させ、伝道所に關係の會員一二名の転籍を承認した。ここに石神井伝道所が正式に開設された。

二月一六日（日）石神井伝道所第一回創立記念礼拝が大村牧師により持たれ、礼拝後第一回教会總會が開かれ、以後毎年二月第三日曜日に創立記念礼拝を行うことを定め、また石井忠善牧師を主任担任教師として招聘することを決議した。教会敷地は辻英祐氏の御好意により、下石神井二ノ一二五三の現在地に決定、建築基礎式を行う。

四月七日（日）石井牧師阿佐ヶ谷教会を退任、石神井伝道所主任担任教師として赴任する。阿佐ヶ谷教会より教会敷地六八坪分の代金百万円を受領する。

六月八日（日）会堂建築完成し、献堂式を挙行。一二〇名。
六月一五日（日）教会学校開校。

